

No.5 計測器による大腿部圧迫

事例	年齢：0歳 8か月 性：男	
傷害の種類	大腿部圧迫	
原因対象物	身長・体重計測器	
臨床診断名	打撲，皮下出血	
発生状況	発生場所	医院内で，体重測定などをする広い部屋
	周囲の人・状況	体重測定器の側に母親と測定者（スタッフ），同室していた他の親子が3組程度いた
	発生時刻	10月24日 午後0時10分頃
	発生時の詳しい様子と経緯	測定者が患児を仰臥位にして（向かって右側を患児の頭にした状態）体重測定を終えたとき，患児が測定板上で右側に寝返りをうった。その時，コントロールボックス（体重，身長デジタル表示の部分）と測定板の間に5.5cmの隙間があり，そこに左大腿部が挟まった。コントロールボックスと測定板のあらゆるネジを外したがその隙間は広がらず，そのうち患児に発汗が認められ，それが潤滑油となり自然に抜けた。全経過として約10分かかった。 患児は啼泣して暴れ，母子ともにパニック状態になった。同室に居た他の親子にも多大な影響を与えた。
治療経過と予後	事故発生の翌日に，挟まれた左大腿部に1.5cm×1.5cmの紫斑を認めた。経過観察としたところ，2日後に紫斑はほとんど消失した。その他の異常は認めなかった。	

【こどもの生活環境改善委員会からのコメント】

1. 日常的に使用する測定器具による傷害であり，同じ状況はどこでも起こりうる。
2. 隙間があれば，子どもの身体の一部が挟まれる状況はつねに発生しうる。
3. 手や足の指，あるいは首が挟まれる状況はよく知られているが，このような肢位で大腿部が挟まれる場合がある。
4. 大腿部にいくつか定点をおき，月齢別，年齢別の大腿径の測定データを揃えておく必要がある。
5. 乳幼児に使用する器具については，あらゆる隙間について「挟み込み」の可能性を検討し，簡便な解除法についても検討しておく必要がある。

